

# 歌って認知症予防



手拍子を交えて歌う参加者と堀内さん  
(右から3人目) 中村区北畑町で

中村区北畑町の僧行会城西病院が、認知症のリハビリテーションとして開く音楽療法の催しが人気だ。昨年五月から水曜以外の平日に毎日開かれ、最近では毎月延べ二百人以上が訪れるようになった。一月には参加者で作詞したオリジナルソングのCDも完成した。

認知症の本人や家族らの情報交換などを目的に、二〇一五年十月から院内で開く認知症カフェの一環。月に一回取り入れていた音楽療法が好評だったことから、病院は昨春に音楽療法士の堀内裕美子さん(三三)を採用して本格的に始めた。

現在は午前十時～正午に、地域の七十～九十代を中心に毎回二十人ほどが参加。堀内さんがギターやキーボードで演奏して参加者が声を合わせる。「夕焼小焼」や「神田川」「北国の春」「およげ!たいやきくん」など七十曲の歌詞が書かれたファイルから、参加者のリクエストに応じて手

## 中村 音楽療法行事が人気

拍子を交えてゆっくりと楽しみ。歌うと心も和歌う。ときには一人が得む」と笑顔を見せる。意の曲を披露する。

病院によると、音楽療した曲のタイトルは「い法は、音楽を楽しむこと つまでもこの町で」。で心身をリラックスさ「尾張名古屋の城の西」せ、健康の回復や向上を「信長秀吉清正も 歴史促す効果がある。思いある町口マンだな」「夢出の曲などについて振り」と希望をもって行こう」返りながら歌うことで、など地元ゆかりのフレー最初は硬かった表情が次々も盛り込んだ。「この第に柔らかくなる」とい町ですと暮らしたい」という思いを込め、催し

堀内さんは「一人一人の最初と最後に歌う。Cにしゃべりかけて会話をDは、参加した人に無料楽しむことも大切にしてで配っている。

いる。花が好きな参加者 参加は無料。コーヒーには花について語っても一杯と菓子で百円。病院らうことも」と話す。夫では、音楽療法とは別の石川栄さん(八七)と参加 認知症相談にも応じている妻明子さん(七〇)中 〇病院総合相談窓口村区は「認知症の主人 〇0120(541)6もここに来るのが毎日の 〇5

(福本英司)

こちらの記事は発行元の許可を得て掲載しています。

2018年2月9日中日新聞朝刊 許可番号 20180213-20659